



# はんなん里海プロジェクト

助成区分	植樹	環境 保全	調査・ 研究	教育・ 啓蒙
実施状況	参加人数 (小学生・高校生) <b>273人</b>	参加人数 (アマモサミット) <b>1450人</b>	活動の全体目標に 対する達成度 <b>100%</b>	

## 活動目的

子供たちを中心に、アマモ場再生活動や体験型学習会を通じて森里川海のつながりを学び、そのつながりがもたらす「里海」を実感してもらうと共に、これらの環境を次世代に継承するために、多様な世代の連携を図り、次世代からの情報発信を行うことを目的とする。

## 活動内容

1. 海の環境体験  
阪南市の小学校3校(西鳥取小・舞小・下荘小)とのアマモ場再生活動。  
関西大学北陽高等学校と連携して、各活動時のサポートや学習会における講師の体験を通じた「次世代リーダー」の育成
2. 子供たちによる情報発信  
2018年2月24日に開催された「ほっといたらあかんやん!大阪湾フォーラム」で西鳥取小・北陽高校がそれぞれ活動成果を発表した。また11月3日に開催された「全国アマモサミット2018in阪南」では西鳥取小と北陽高校が合同で活動や気付き等を演劇で発信した。
3. 啓発図書の作成  
子供から大人までの幅広い世代に、森里川海のつながりや阪南の自然の重要性を知ってもらうための図書「マンガ! はんなんの里海」を作成し、全国アマモサミットで配布した

## 成果

- ・全国アマモサミットでは、今までの成果を演劇にして発表し、新聞記事にも取り上げられた。
- ・マンガ作成に関してはこどもを中心に製作委員会を立ち上げ進めることができた。

**アマモ場の保全 演劇で紹介**  
サミットで阪南・西鳥取小と関大北陽高

西鳥取小の子どもたちは、アマモが育つ海の魅力を劇で披露した＝阪南市



## 工夫した点

- 【大阪湾の負のイメージを払拭する】
  - ・地びき網を使った生き物観察など海と直接ふれ合う体験型の学習プログラム⇒海と直接ふれ合う機会の創出
  - ・年齢が近い高校生による小学生への授業の実施  
⇒小学生は、より親しみやすい環境で学べる。高校生は、教えることが気付きや学びとなる。
- 【持続可能な活動プログラムにする】
  - ・既存の学習プログラムに合わせた活動の組み立て。 ⇒先生方への負担軽減
  - ・学内の発表会や外部での発表を通じて、父兄への情報発信を行う

## 今後の課題

- ・アマモ場再生活動の継続  
⇒漁協や博物館との連携を強化・教育カリキュラムに合わせた活動
- ・市内の全小学校への普及と継続性の担保  
⇒教育委員会との連携による支援体制・教員への研修の実施・合同発表会の開催